

めざす児童生徒像

- 思いや考えを持ち、伝えることのできる子
- 友だちのよさを見つけることのできる子
- 互いに高め合うことのできる子

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
					教員	児童生徒	保護者			
（学校で設定）	学校重点項目	自己肯定感の向上	①②において９０％以上	① 教師は、児童のよさを認め、引き出す声掛けをしている。	100	93	95		①②のどちらも目標の９０％を概ね超えている。児童の評価はやや低めだが、保護者の信頼は高いものとなっている。職員は、担任・級外問わず全校児童にかかわりをもちながら、温かい声かけを心がけてきた成果ととらえられる。	2学期からは、キャリアパスポートの活用にも力を入れ、より児童の自己肯定感を高め、自身のよさを実感できるような取組や機会を、授業の中や行事を通して増やしていく。
				② 教師と児童とが互いに信頼し温かい関係ができています。	97	86	95			
				③ キャリアパスポートを活用し、学びや成長を実感できるようにする。	24					
				集計						
重点項目	石川県共通業務の改善	働き方改革	①②において９０％以上	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	76				時間外勤務が80時間未満にする取り組みは、まだまだという結果である。1学期は新年度のスタートと6月の計画訪問があり、継続して業務が立て込んだことが原因と考えられる。組織におけるそれぞれの役割については、肯定回答が９０％を超え、概ね良好な形で進められていると判断できる。	2学期からは、定時退校日等の取組を確実に進めていく。また、最終退校時刻を19時30分とし、時間に区切りをつけながら、健全な働き方の流れを作っていく。
				② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができています。	91					
				③ 効率的な業務の進め方を工夫している。	85					

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
					教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	①②③において90%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	97				①②③のいずれについても目標指数を超えている。研究の方向性やその方策について、その意図を共有できるよう努めるとともに、「学びのスタイル」や「授業スタンダード」など具体的なもので提案した。また、授業の参観の視点を焦点化した。これらの取組が、共通実践を進める上で有効であったと考えられる。また、教材研究をもとにした、ゴールの姿から逆思考で考える授業づくりが定着してきたと判断できる。	・毎月末に授業力改善チェックシートを用いて教師が自身の授業を振り返っている。その実践の様子を研究だよりなどを通して交流を進めるとともに、学力調査の分析や1学期の研究授業を通して見えた課題などからチェック項目を見直し、より実態に沿ったものにしていく。 ・今後も教材研究をもとにした授業づくりとその検証を進めていく。外部講師を招く機会を生かし、客観的に本校の研究を見直し、改善に役立てていく。
				② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	97					
				③ ゴールの姿を具体的に想定した上で個を見取り、それを生かした授業実践に取り組んでいる。	100					
				集計						
		「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①②⑤⑦において児童教師共に８５％以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	94	85			①②⑤⑦において、いずれも児童教師共に目標指数を超えた。毎月末に「授業力改善チェックシート」を用い、教師が自身の授業を振り返っている。改善を図ったり学年間で話し合ったりするなどPDCAサイクルが機能している成果であると考えられる。 ①⑤については、児童よりも教師の肯定的回答が５p以上上回った。一方、③④⑥については教師よりも児童の肯定的回答が大きく上回っている。どちらも、児童と教師間で「できた」と判断する基準が異なっていることが要因と考えられる。特に⑥については、教師間で取組の差が大きい。	②について、２学期は「学びのスタイル」のキーワードに「つなぐ」を追加し再提案する。つなぐための発話や問い返しを具体的に示し、児童教師ともに思考をつなぐ意識をもって取り組んでいくことを目指す。 ①⑤については、日々授業の中で児童の姿を価値づけ広める声かけをしていく。見取りの視点や、具体的な手立てについて交流を進める。それぞれの感覚で行っている部分を言語化したり「授業スタンダード」に反映したりすることで共有を図る。 ⑦について、学習掲示の活用を進めていくとともに、既習との関連を意識した問返しを心がける。また、児童の発言や振り返り等を価値づけ広めることで児童の意識も高めていく。 以上のような取組を学校全体で進めていくことで、目標項目についてのさらなる向上を目指す。
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	87	87				
				③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	71	86				
				④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。	81	88				
				⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	94	88				
				⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	62	92				
				⑦ 児童生徒は、既習とのつながりを意識して問題解決に取り組んでいる。	87	89				
				集計						
		学力の向上	③算数科における単元テストの平均が85P以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	91				①年度の初めにカリキュラムマップの確認・訂正を行い、各教科等について教科横断的な視点で指導計画を作成するよう学年会で確認した。 ②については、主任会後に各主任に進捗状況を記入してもらい、主任間での連携・調整と、PDCAサイクルを確立できるよう働きかけている。 ③については、職員全員で学力・学習状況調査を分析した。それらの情報について、共通理解の時間を設けた。今後授業で気を付けていくことを共通理解した。その結果が、単元テストの平均が８５P以上につながったのだろう。 ④については、まだ十分に組み組めていない。	①については、学年会を充実させ、教科横断的な視点で指導計画の作成につなげていけるよう働きかける。その際、②のPDCAサイクルとも関連させて働きかけていく。 ③については、児童の学力・学習状況について再度分析し、どこでつまづいているのかを明確にし、研究と連携して共通実践に取り組めるように、授業改善チェックシートに課題を載せていく。合わせて、級外の支援も充実させ、学校全体で学力向上に取り組み、単元テストの平均の向上を図る。 ④については、夏休み中に小中連携の会を通して情報交換し、課題の共有を行っていく。
				② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	97					
				③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	97					
				④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携）	52					
				単元テスト平均	87					
				集計						
		家庭学習	①において９０％以上	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	87	81			①について、年度初めに学年間や校内での基本的な家庭学習の方針や内容について共通理解を図った。また、自学について系統性を見直し、文書化すると共に児童とも共有した。 ②について、週１回、学習用端末を家庭学習に取り入れることが徹底できていなかった。	・家庭学習ステップアップ週間の取組を通して見えた各学年の課題について、2学期以降重点的に取り組んでいく。また、家庭学習の取組についての共通理解を図るために、実践交流を行っていく。 ・GIGA推進チームと連携して、家庭学習で学習用端末を活用していくように働きかける。
				② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	66	70				
				集計						